祐善寺だより

第24号

発行日
2010年7月8日

真宗大谷派 祐善寺　住職/岡﨑　賢　福井県丹生郡越前町上糸生・森　TEL 0778-34-5170　FAX 0778-34-5170

法句シリーズ

「花」

花には
散ったあとの
悲しみはない
ただ一途に咲いた
喜びだけが残るのだ

坂村真民

法句に憶う

住職　岡﨑　賢

今年は、寺の周辺の庭や土手にマーガレットの花が一斉に咲き乱れました。〝咲き乱れる〟とは勿体ないような表現ですが、とにかく、今年は、あちこちにマーガレットの花が満開でした。おそらく、昨年に咲いた花の種が、風に揺られてあちこちに根付き、初夏のこの時期に見事に花を咲かせてくれました。

そのマーガレットも、今ではもう、すっかり花びらも散ってしまい、黒ずみかけた花茎が夏の日差しに照らされて、満開に咲いた余韻を残してくれているようです。

横に目をやると、この間まで咲いていたばかりのシャクヤクも、もはや花びらも散り、花床だけが堂々と残っているだけです。まさに、坂村真民さんが書いているように、〝ただ、一途に咲いた喜びだけが残っている〟かのようです。

よくよく見てみると、それぞれの花は、どの花をみても、〝ただ、一途に咲いている〟ばかりです。花は、どの花を見ても、それぞれが自分の花を咲かせ、自己完結して散っているかのようです。花が、実に見事に自己実現しているではありませんか。

それでは、私共人間の生のありさまは、どのようなものでありましょうか？親子関係も崩れ、地域のコミュニティも崩壊し、人としてのつながりを生きるということが、希薄になってしまいました。人の世の連帯感が薄れてきて、あまりにも殺伐としてきているのではないでしょうか。毎日のようにマスコミを通して伝えられる凶悪事件の報道を観るたびに、いったい人間の尊厳とは何処かへ置いてきてしまったのだろうか、と考えさせられます。

そして、人としての生をいただきながら、本当に人としての生を終えて行ける人はどれくらいいるのであろうか、と考えてしまいます。坂村真民さんの言葉を借りるならば、人として生を受け、人として一途に生きた、といって喜んで生を終えることが出来る人は、ほんの一握りの人たちに限られるようなことではないか、と思わざるをえません。

それぞれの花が、一途に咲き一途に散って自己実現していくように、私たち人間も、先祖代々、脈々と伝わってきているかけがえのないいのちに目覚め、一日一日、阿弥陀様に感謝申し上げながら、いただいたいのちを、一途に一生懸命に生きていきたい、と思うばかりです。

本堂屋根瓦修復工事完了

今冬の雪は、水分を含んだ雪で重たかったためか、本堂屋根の瓦が一部、ずれたり、数箇所で瓦が損傷しました。

屋根は、建物の保存に最も大事な部分ですので、早速、役員会で検討し、早急に修繕が必要との結論により業者（越前市　丸藤）に見積りを依頼し、見積額は総工事費三十万円（消費税を含む）の提示がありました。

本来ならば、修繕事業計画案を門徒総会にお諮りしてから工事に着工すべきですが、本堂屋根瓦の修繕でありましたので、役員会の承認で業者に修繕を依頼し、先般、修繕工事が完了しました。

総工事費三十万円は、祐善寺積立金会計より充当させていただきました。

なお、本堂前面丸瓦積直し工事では、瓦を固定するために今回、ナンバン漆喰という資材を使用しておりますので、今冬のような重い雪でも瓦がずれるというようなことはなくなるとのことです。

ご門徒の皆様には、事後承認という形になりましたが、事情をお汲み取りいただき、ご了承くださいますよう、お願いいたします。

本堂屋根瓦修復工事の様子

祐善寺 納涼のつどい 開催！

祐善寺へ老若男女の誰もが気軽に集えるようにするためにはどうしたら良いか？との課題について何度も役員会で検討を重ねてきました。

〝お寺が楽しいこともある場所ということも大事ではないか〟〝子どもの時にお寺の報恩講さんにおばあさんに連れて来てもらった時には、夜店も出ていて賑やかだった〟等々のご意見が出されました。

ご先祖様が眠る祐善寺に門信徒の皆がつどい、楽しい思い出を残したい。そのような願いから、このたび、下記の要領で「祐善寺納涼のつどい」を開催することとなりました。

具体的な内容は、実行委員会で決めていきますが、門信徒の皆様には日程を空けていただき、是非、ご参加下さいますよう、お願いします。

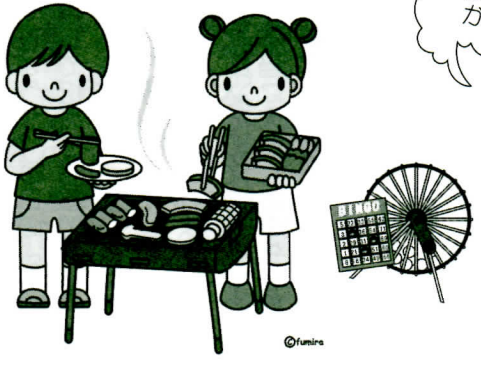
とき　七月二十四日（土）午後三時～

ところ　祐善寺本堂＆境内

参加費　五〇〇円（一人）中学生以下無料

内容　正信偈おつとめ　紙芝居・バーベキュー　流しそうめん　ビンゴ大会　等々

楽しい企画が一杯！



ボランテイア募集！

なお、この「祐善寺納涼のつどい」の準備、運営を支えて下さるボランテイアを募集しております。ご協力いただける方は、祐善寺までご連絡下さいますよう、お願いします。

りしーずいそう
笑顔の勧め

二十年余り前に『和顔愛語』と書かれた著名な書家の作品を頂いてから、私はこの言葉が好きになりました。何だかこの文字を見るだけで心が温かくなるような気がします。

『和顔愛語』とは大無量寿経というお経の中に出てくる言葉で、『菩薩は人々に対して、常に和顔愛語にして先意承問す』と説かれているらしい。『和顔愛語』とは善意に満ちた和やかな笑顔と、愛情のこもった優しい言葉で相手に接するということであり、『先意承問』とは、相手から言われる先に相手の気持ちを察して、その望みを満たしてあげるという意味だそうです。

自分のそばにそんな素晴らしい人がいてくれたらなぁ……なんて都合の良いことを考える前に、先ずは自分が少しでも菩薩の教えに近づけるよう心掛けるようにしましょう。

『べっぴんも笑顔忘れりゃ五割引き』なんて川柳がありますが、美人であっても冷たい表情の不満顔や声かけしても聞こえぬふりでは頂けません。目鼻口の配置に多少のずれがあったとしても、そんなことは大した問題ではないのです。ニコニコとした笑顔よしの方が、よっぽど自分の心も周りの人の心も明るくします。『世の中に幸せ配る笑顔よし』とは、よく言ったものです。

『笑うのは顔の筋肉十六本ですむが、怒るためには六十二本もの顔の筋肉を動かさねばならん。エネルギー論からも怒るより笑う方がうんと得。』とは、アメリカのある学者の持論。それだけでなく、笑えば肺が大きく動いて大量の酸素が体内に取り込まれ、脳細胞にも酸素が行きわたって脳が活性化するそうな。

逆に怒ったり睨みつけたりしていると、当人の脳がストレスを受けて興奮状態になり、酸素をどんどん消費する。そのために脳細胞への酸素供給が不足して脳の働きが悪くなり、これが重なれば体に不具合が生じる確率が高まるらしい。

昔から『笑う門には福来たる』といいます。やっぱり少々無理をしてでも、笑うように努めましょう。

笑えば自分の心と体がすっきりするのは勿論ですが、それだけでなく周りの人にもちょっぴりだけ幸せな心のお裾分けができるのです。(G)

花だより

小さいから見逃しがちだけど　これは稲の花です
小さな粒がそれぞれに雄しべと雌しべを持ち
風の恵みの中で交配して　米粒の元になります
米粒の元は　太陽と水などの自然の大きな恵みと
耕作者の熱い祈りをいっぱいに受けながら
秋までには立派に成長し　一人前の米粒になります
一人前になった米粒は　自分の命を捧げて
ご飯や握り飯　時には米パンやお菓子　お酒になって
人の命を支えます
人は　そんな米粒だけでなく
野菜　魚など沢山の生き物たちの尊い命といっしょに
今日の一日を生きるのです
人は自分の命だけで生きているのではないのです

だから　もうそろそろ
自分のためだけに生きるのは　止めにしよう
毎日が少しだけ　人のため世のために生きましょう

それが　まっとうな生き方のように思うから　(軍)

平成22年度護持費の志納よろしくお願いします

祐善寺を永代に亙って護持していただくために、護持費をお願いしておりますが、今年も次のとおりご志納下さいますようよろしくお願いします。

◇護持費の使途

・報恩講の厳修費や教化事業の実施
・本堂を守る火災保険や環境維持費用
・本山相続講、福井教区賦課金等
・その他

◇年額

一戸平均　一〇、〇〇〇円

◇志納方法

・寺へ直接志納する
・秋まわりや法事で住職が貴家を訪問の際に志納する
・地区の役員さんに志納する
・郵便振替口座
（〇〇七七〇―九―三〇七二一
・加入者＝祐善寺）
へ振り込む

◇志納期限

毎年十一月末日

吉崎繁盛記

上野保雄

蓮如上人四十三歳、本願寺八代の門首になられたが、叡山の僧に追われ近江の国より越前の吉崎に居を構えられた事は、前号で紹介しました。

吉崎の地は、父存如のお供をして北陸下向した時、見そめていたようです。世の中が未だ物騒な最中で争いが絶えない頃でした。まして叡山の僧は、蓮如を目の敵として追い回していました。吉崎は、天然の要塞的土地であった為と思われます。吉崎に坊舎を建てられてからの蓮如は、昼夜の別なく精力的に布教に専念され、近郷近在くまなく歩かれ、一人でも二人でも聴いてくれる信者がおれば直ちに行き、布教に信者発掘に精を出し、またたく間に〝吉崎の蓮如さん〟と評判になり、農民の中にとけ込んで門前市をなす盛況となり、多屋は建ち、寺内町も出来、参拝の善男善女はあとを絶たない吉崎に発展をしました。この頃に、祐善寺も蓮如によって改宗したと思われます。僅か四年の短い年月でしたが、蓮如の生涯で最も活動された時期であったと思われます。

この吉崎で、有名な噺が「嫁威しの面」です。十樂村の百姓「与三次」の妻、「あり清」は、夫に先立たれ蓮如の説教に心打たれ熱心な信者となり、毎晩吉崎に聴聞に行くのを、姑おもとが憎み、暗夜、鬼の面をかぶり威したが、あり清は、びくともせず、「食まば食め　喰わば喰え　金剛の他力の信はよもや喰むまじ」と、そのまま蓮如の説教に走った。おもとの面は取れなくなり、肉付きの面となったが、蓮如の教えで取れたので、姑も熱心な信者となり、円満な家庭となった、ということです。

善光寺の牛に引かれて善光寺参りと共に有名な噺であります。旧美山町の市波の本光坊の火事の真只中飛び込んで、腹を切って本尊を納めて救ったとの逸話もあります。

蓮如の特筆すべきことは、手紙の様式で多くのお文様を下付し、親鸞の教えを誰にでもわかるように悟され、広められた事と思います。全部で、二二一通あり、中の八十通を抜いて集め、四帖目迄は書かれた日が明記され五帖には不明です。このお文の下付により、どれだけの信者が教化されたか、浄土真宗が興隆されたか計りしれません。蓮如の偉大なる業績だと思います。

おくやみ

田中キヨ様（福井市滝波）には、平成二十二年一月二十七日、行年九十三歳にて往生の素懐を遂げられました。
ご生前中のご功労に、心より深謝申し上げます。

斎藤ナミ子様（越前町上川去）には、平成二十二年二月四日、行年八十六歳にて往生の素懐を遂げられました。
ご生前中のご功労に、心より深謝申し上げます。

上野　旻様（横浜市）には、平成二十二年二月二十三日、行年七十一歳にて往生の素懐を遂げられました。
ご生前中のご功労に、心より深謝申し上げます。

川中敏夫様（福井市西学園）には、平成二十二年三月十五日、行年七十五歳にて往生の素懐を遂げられました。
ご生前中のご功労に、心より深謝申し上げます。

野村てるゑ様（越前市家久）には、平成二十二年五月十三日、行年九十歳にて往生の素懐を遂げられました。
ご生前中のご功労に、心より深謝申し上げます。

第9回 御文講座

末代無智の章（2）

かならず弥陀如来は
すくひしますべし

かならず阿弥陀様は、お助け下さいます。

これすなはち第十八の
念仏往生の誓願のこころなり

これこそ、第十八願の念仏往生のお誓いの心であります。

かくのごとく決定してのうへには

このように信心が定まりましたなら

ねてもさめても
いのちのあらんかぎりは

寝ても目が醒めても、いのちのある限りは

称名念仏すべきものなり

報恩感謝の称名念仏につとめるべきです。

あなかしこあなかしこ

勿体ないことです。南無阿弥陀仏。

其の20

仏事一口メモ

通夜までの心得(3)

通夜・葬儀にあたり、決めなければならないことがあります。まずは喪主の決定です。喪主はいわばお悔やみを受ける遺族の代表者です。故人に最も近い人（配偶者やその子など）がなるのが一般的です。

次に、通夜・葬儀の日時や会場です。

葬儀の日取りを決めるときに、暦法の一つの「友引」を忌み嫌う風習が根強くありますが、これは全く仏教とは関係なく意味のないことです。

「友引」とは、陰陽道でいう六曜（先勝・友引・先負・仏滅・大安・赤口）の一つで、日の吉凶を占うものとして使われたといいます。もともとは「共に退く」ということで、何事も引き分けで勝負がつかないという意味でした。それがいつしか死者が友を引くと忌み嫌われるようになり、友引には葬儀を出さないという俗信（迷信）になったようです。

親鸞聖人は、「吉良日を視ることを得ざれ」と教えられています。つまり、仏・法・僧に帰依するならば、日の善し悪しをみる必要はないということです。すでにお話ししましたように、葬儀は、残されたものが仏さまの教えに遇う大事な機縁になるものです。日の善し悪しに執われることのない人生を仏さまの教えに訪ねていただきたいと思います。昨今では、友引にあたる日を定休日とする火葬場が多いため、その日の火葬は不可能になっていますが、都合によっては友引にあたる日に葬儀を行い、別の日に火葬してもかまわないわけです。

日時や会場のほか、通夜・葬儀とを執り行うにあたり、世話役をはじめとする各係も必要となります。世話役は、喪主や遺族にかわって葬儀終了までの一切の実務の中心になる人です。係りは、受付・接待・会計・会場整理・炊事などです。必要に応じて依頼します。

最近では、式場づくりをはじめ、通夜・葬儀のほとんどを葬儀社が行ってくれます。葬儀社には何を依頼し、何を自分たちで行うかを、十分、打ち合わせましょう。（「サンガ」より）

お知らせ

永代経会

八月七日(土)

十一時半　御斎(おとき)

一時半　永代経会法要

二時　布教　徳永寺住職　平等明信師

三時二十分　物故者総墓収骨

永代経会とは、亡き人から願いをかけられて生かされていただいていることに、感謝申し上げる法会であります。

このかけがえのない法会に、ご家族、ご法友お誘いあわせの上、何卒ご参詣下さいますよう、ご案内申し上げます。

ボランティア募集!!

寺周辺の草刈り作業奉仕

日　時…七月十八日(日)　八時集合

持　物…草刈機もしくは鎌、軍手　等

昼　食…用意します。

雨　天…決行します。

炎天下で恐縮ですが、ご協力頂ける方は、前日までに祐善寺までお電話下さい。

草刈り作業のみならず、刈り草運びや草むしり等の作業もありますので、どなたでもご協力いただけます。

ご協力頂ける方は、傷害保険に加入します。

皆様、どうかよろしくお願いします。

親鸞聖人七百五十回御遠忌 団体参拝者募集!

宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌法要は、東本願寺において、平成二十三年三月十九日から五月二十八日まで三期に分けて法要が営まれますが、福井教区では、左記のとおり団体参拝者を募集しています。

祐善寺には十五名の団体参拝者の枠がありますので、是非、皆様からのお申込みをお願いいたします。

五十年に一度の勝縁であります御遠忌法要への皆様のご参拝を願っています。

■参拝期日

平成二十三年三月二十六日(土)～二十七日(日)

■日　程

・三月二十六日

福井各地発→比叡山・にない堂／延暦寺参拝→京都市内旅館(泊)

・三月二十七日

旅館発→御遠忌日中法要参拝→みやこめっせ見学→親鸞展見学→福井各地着

■参加費

・二万三千円

■申込期限

・平成二十二年九月三十日

編集後記

★今年の春は、天候が不順の日が続きました。春になっても雪が降ったり、夏近くになっても、震え上がる程、寒かったり、反対に三十度近くになったりする等、寒暖の差が大きく、農作物に被害をもたらし、私たちの生活にも影響を及ぼしました。自然が人間に何かを訴えているのかもしれません。

★宮崎県で発生した口蹄疫は、一ヶ所だけにとどまらず、飛び火が確認され、今なお家畜や人々を苦しめています。一日も早く終結し安心が届く事を願わずにはおられません。

★お寺にお参りされる方の多くは歳を重ねた人たちです。子どもたち、親御さん、若い人たちにもお寺に足を運んでもらいたいという熱い思い、強い気持ちから、今年は「祐善寺納涼のつどい」をすることになりました。青壮年層のご門徒の方々に実行委員になっていただき、皆で力と心を合わせて、初めての催しを楽しいものにしたい、と思っています。皆様、どうぞご都合をつけて、祐善寺へお顔を見せて下さい。夏のひとときを、祐善寺で共に過ごそうではありませんか。お一人でも大歓迎です。ご家族全員なら尚更、大歓迎です。是非、是非お越し下さい。お待ち致しております。(K)